

持続可能な農業を実践、多様な人材がイキイキと活躍できる農場づくり
～ コロナ禍で休業を余儀なくされた宿泊業者との連携 ～
株式会社本山農場(美瑛町)



〈本山 忠寛 代表〉

【組織等の概要】

- 代表：本山 忠寛(もとやま ただひろ) (36歳)
- 経営面積：150ha ※2021年8月1日現在
- 品目：トマト(施設ハウス63棟)、たまねぎ70ha、小麦22ha、かぼちゃ12ha、アスパラ12ha(うち品種：ラスノーブル6ha)、ビート8ha、にんにく20a
- 従業員等：役員5名、通年雇用(月給制)4名、季節雇用(2～11月)5名、パート6名、障がい者雇用2名、技能実習生・特定技能実習生(ベトナム、中国)16名
- 本山農場HP(URL)： <http://motoyamafarm.com/>

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 本山代表は、美瑛町美沢地区で4代続く畑作農家。
- ◆ 先代から引き継いだ農地を後世に繋ぐため、化学肥料に極力頼らない環境保全型農業を実践。
- ◆ 堆肥投入による土づくり、減農薬の栽培をベースに、町内酪農家がバイオマスプラントで発電する際に生成される消化液を畑に散布し、「耕畜連携」を実施。
- ◆ 代表の妻が介護福祉士の資格を持ち、農福連携に関心があったことから、障害者トライアル雇用を活用し、雨竜町高等養護学校の卒業生(同町出身)を雇用。健常者同様に働けることが確認でき、2018年から本採用。その後、新たに同校卒業生1名を採用し、現在2名を雇用。
- ◆ 2019年春、地元農家等の有志で、観光客と農家の摩擦をなくすことを目的にクラウドファンディングを実施。メンバーの畑に、農家の思いを伝える看板を設置し、自発的にマナー順守を促す「美瑛畑看板プロジェクト《ブラウマンの空庭》」の活動に参画。
- ◆ 2020年9月、福利厚生を充実させ、従業員が働きやすい環境を整えるため法人化。同時に、将来の人材確保を見据えて、農業インターンシップの受入れを開始。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 2020年5月、看板プロジェクトに続く、新たなプロジェクトを模索していたところ、コロナ禍で休業を余儀なくされた町内外の宿泊業者が困っていると聞き、人助けができないかと思慮。他方、野菜農家は慢性的に人手不足な状況。



自ら援農を提案するため宿泊業者に声かけを行い、宿泊業者との連携が実現。当農場で、宿泊業者が農作業に従事。

【取組の成果】

○農福連携(2018年～)

・雇用する障がい者2名は、働き始めてから性格が明るくなり、農業には人を元気にする作用があることを実感。自社がモデルケースとなり地域に波及させ、地域に貢献。

○宿泊業者との人材交流(2020年～)

・コロナ禍で宿泊業者10名を雇用し、農業の立場から初めて人助けができた実感。2021年も宿泊業者8名が農繁期に農作業に従事。宿泊業の方に農業を知ってもらう機会になった。
・宿泊施設の営業再開により、自社農産物の食材提供の依頼を受けて販路が拡大。
・異業種交流が、コロナ禍で一緒に農作業を手伝う子どもたちの刺激に、農業の魅力を再認識。

【今後の展望】

- 自己完結型の農業経営ではなく、従業員が将来の夢を実現できるように最大限支援。多くの人を幸せにできる世界一器の大きい農家を目指す。
- 観光客の方々が戻ってきた時、農業の語り部としての宿泊業者の活躍に期待。
- 従業員の働きやすい環境づくりの一環として、農場近くにアパート建設を検討。



〈人手が必要な「アスパラ」の収穫作業〉



〈たまねぎの収穫風景〉